土岐市美濃陶磁歴史館

特別展

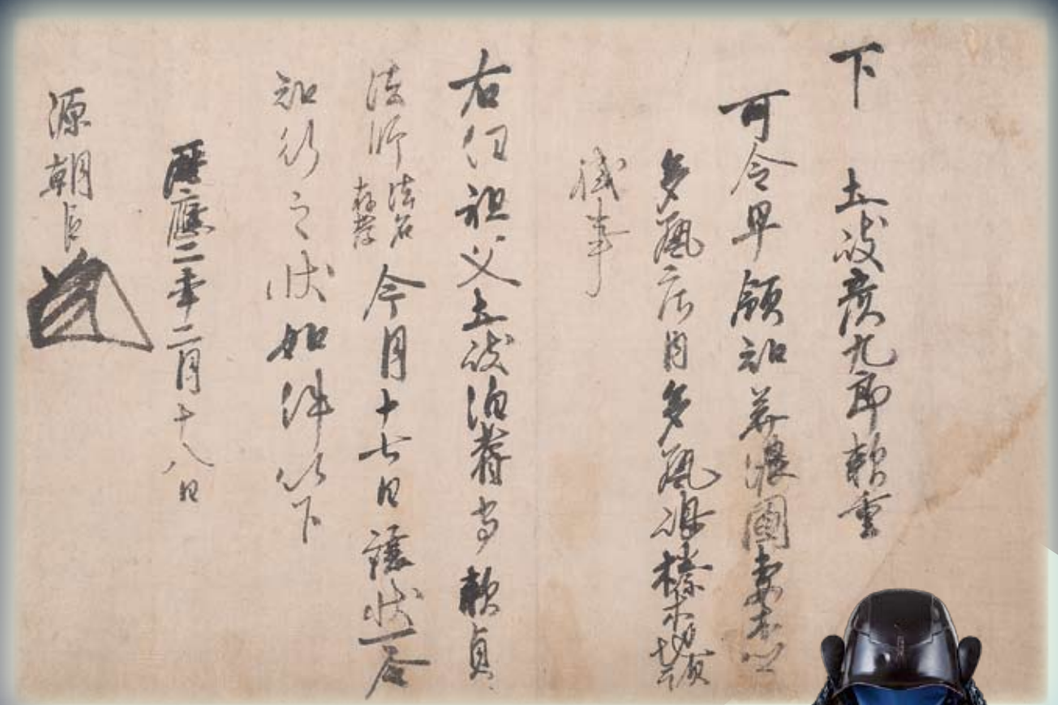
光秀の源流 土岐明智氏と妻木氏

2020 2/29(土)→5/31(日)

大河ドラマ「麒麟がくる」主人公の明智光秀に関連した展覧会を開催！
500 年ぶりに里帰りする「土岐家文書」や土岐市妻木町に残る文化財などから、盛衰を繰り返し東濃地方を治めた土岐氏・土岐明智氏・妻木氏の歴史をたどり明智光秀との関係性を探ります。

2/29（土）
3/1（日）
は入館無料！

土岐家文書 五百年ぶりの帰郷



足利直義奥上署判下文（土岐家文書）暦応２（1339）年　（群馬県立歴史博物館寄託）

土岐家文書とは？

鎌倉時代から室町時代にかけて美濃国を治めた土岐氏とその庶流土岐明智氏にまつわる古文書群で、鎌倉幕府や足利将軍家と交わした書状など、各時代の中央政権とのつながりを物語っています。土岐明智氏の子孫である沼田藩土岐家（群馬県）に伝わり、このたびの特別展で土岐市に里帰りします。

妻木家頼所用具足　江戸時代（17 世紀）（妻木八幡神社所蔵）
妻木家頼所用刀 銘「朝露」　江戸時代（17 世紀）（妻木八幡神社所蔵）土岐市指定文化財
湯立面「火の王」「水の王」　正保 5/ 慶安元（1648）年（妻木八幡神社所蔵）土岐市指定文化財

土岐家文書を楽しむために　知ってるとおもしろい！中世文書の見方

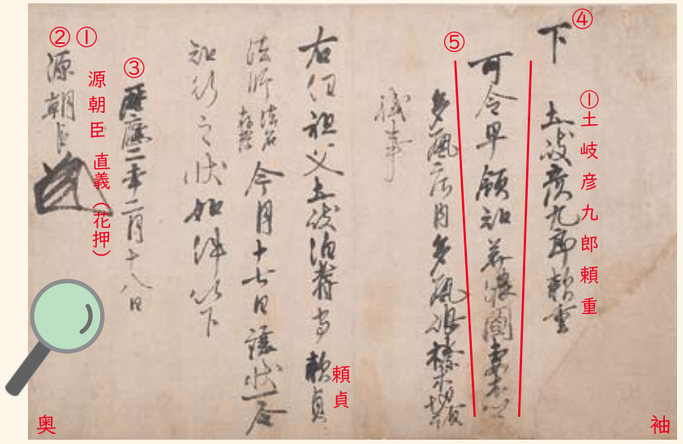
中世文書には、差出人と宛先人の身分の上下や関係性などによって書き方に決まりがあり形式化されていました。この決まりを知っておくと、たとえ細かい内容まで解読できなくても、歴史上の人物たちの関係性、差出人の人柄や当時の状況を垣間見ることができます。

ポイント①　誰から誰に送られた文書かな？　　**ポイント②　差出人の署名の位置に注目！**

A. 足利直義奥上署判下文（あしかがただよしおくうえしょはんくだしぶみ）

暦応２（1339）年
（群馬県立歴史博物館寄託）

土岐明智氏の祖彦九郎頼重が祖父頼貞の遺領を相続することを室町幕府が認めた文書。

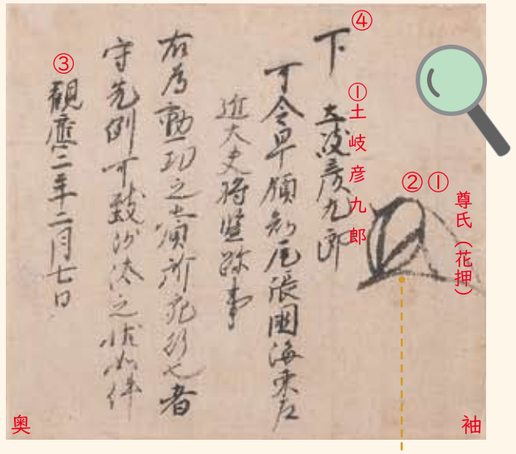


① 足利直義（尊氏弟）から土岐彦九郎頼重（土岐明智氏初代）へ
② 紙の左側上部に差出人の署名がある

B. 足利尊氏袖判下文（あしかがたかうじそでばんくだしぶみ）

観応２（1351）年
（群馬県立歴史博物館寄託）

彦九郎頼重が足利尊氏から領地を与えられた文書（観応の擾乱の戦功に対する恩賞か）。



① 足利尊氏から土岐彦九郎（土岐明智頼重）へ
② 紙の右側に差出人の署名がある

紙の右側を「袖（そで）」、左側を「奥（おく）」と呼びます。袖に判（差出人の署名）がある文書は最も尊大な表現で、差出人が自らの権威を誇示しています。その次に権威を示せる位置は「奥」に判を記す表現です。宛先人に対してへりくだった表現は日付の下に判を記す「日下（ひのした）」というものがあり、判の位置で差出人の立ち位置がわかります。

花押（かおう）ってなんだろう？

署名の一つである「花押」は、姓ではなく名に使用している漢字を崩して記号化したものです。通常、朝廷の官職名（A の場合「源朝臣」）とセットで花押を書き記しますが、B では花押のみが記されており、肩書を記さなくても誰だかわかるだろうという尊氏の強気な姿勢がよみとれます。

③ 年号が書かれているのは公的な書類であることの証！
④「下（くだす）」と書かれているのは上位下達の命令文であることを示し、「下」の下には宛先人の氏名が記されています。差出人の足利直義、足利尊氏が宛先人の土岐彦九郎頼重より上の立場であることがわかります。

⑤ 文字の大きさ
「下文（くだしぶみ）」には、上から下に記すにつれて文字を小さく書く特徴もあります。

ほかにもいろいろなポイントがあるよ！
展示室で詳しく見てみよう！

イベント情報

●講演会

日時：2020 年 3 月 28 日（土）13：30 ～
会場：セラトピア土岐 2 階 小ホール（土岐市土岐津町高山 4）
講師：土山 公仁 氏（愛知淑徳大学非常勤講師）
　　演題「明智光秀と妻木一族」
　　黒田 正直 氏（土岐市文化財審議会会長）
　　演題「崇禅寺の位牌にみる明智氏と妻木氏」
参加費：無料、事前申し込みなし　※当日 11 時よりセラトピアにて整理券を配布（200 枚）、お 1 人様 2 枚まで。

●学芸員による展示解説

日時：2020 年 5 月 3 日（日）14：00 ～
参加費：無料　※要入館料

土岐市文化財情報　美濃陶磁歴史館だより
vol.8　2020 年 3 月号（特別展特集号）
発行日：2020 年 2 月 29 日
編集・発行：土岐市文化振興事業団
（土岐市美濃陶磁歴史館）
〒509-5142　岐阜県土岐市泉町久尻 1263
TEL：0572-55-1245
WEB サイト：http://www.toki-bunka.or.jp/history
土岐市文化振興事業団では、土岐市教育委員会から美濃陶磁歴史館の運営と埋蔵文化財調査を受託しています。

twitter 更新中

※期間中、展示資料の入れ替えがあります

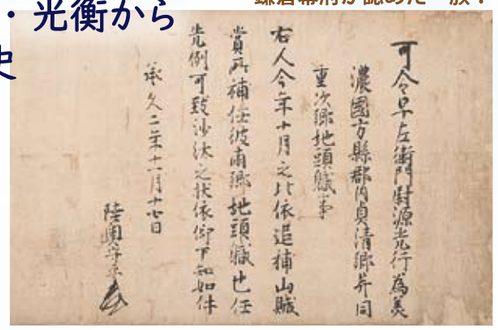
土岐明智氏と妻木氏　土岐一族が治めた妻木郷の歴史

戦乱の時代、妻木郷で
なにがあったのか…

1 土岐郡に土着した源氏・光衡から はじまる土岐一族の歴史

平安時代末期、清和源氏の流れを汲む源光衡が土岐郡へと土着し、その地名を名字としたことが「土岐氏」の始まり。光衡は鎌倉幕府の御家人として源頼朝に仕え、光行、光定、頼貞と代を経て頼貞の時に室町幕府初代美濃国守護となりました。右の文書には土岐氏2代光行の頃、鎌倉幕府から恩賞として美濃国（現岐阜市）の領地をあてがう命が下されたものです。

鎌倉幕府が認めた一族！



関東下知状（土岐家文書）承久２（1220）年 群馬県立歴史博物館寄託

2 中世の領地相続のしくみ

中世の武家社会では、男女問わず全ての子が父の所領を分割相続することが原則で、多くは相続した土地の地名を名字として分家しました。これにより領地は細分化され、一族内外での領地争いを招く一因となりました。やがて嫡男が所領を一括で相続するしくみへと変化していきました。

土岐頼貞・土岐頼基・土岐明智頼重位牌 室町時代（14～16 世紀）崇禅寺所蔵

3 妻木郷をおさめた土岐明智の祖・頼重

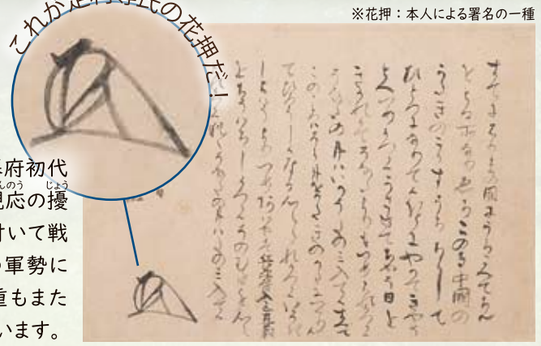
初代美濃国守護を務めた土岐頼貞が亡くなると、その所領は2代守護となる頼遠を含む子らに受け継がれました。その一人で早逝した頼基の分は息子の頼重が相続し、土岐郡妻木郷（現土岐市妻木町）などの所領を得ます。左の土岐家文書には室町幕府がこの相続を認める旨が記されています。これを機に頼重は土岐宗家から分派して「土岐明智氏」を興し妻木郷を本拠としました。

足利直義奥上署判下文（土岐家文書）暦応２（1339）年 群馬県立歴史博物館寄託

4 戦の加勢を求む！ 足利尊氏からの書簡

土岐明智氏を興した頼重は、室町幕府初代将軍足利尊氏と弟直義が争った「観応の擾乱」で土岐宗家とともに尊氏方に付いて戦いました。この戦いで尊氏は味方の軍勢に多くの書簡を送り加勢を求め、頼重もまた尊氏からの軍勢催促状を受け取っています。

※花押：本人による署名の一種

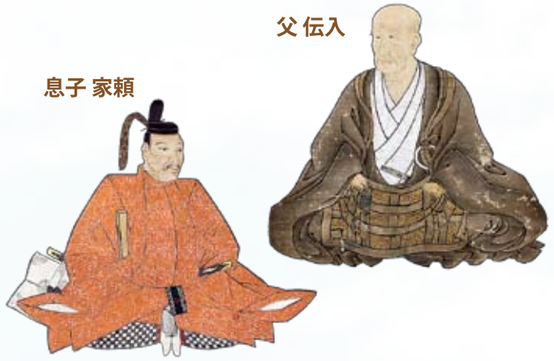


足利尊氏軍勢催促状（土岐家文書）観応２（1351）年 群馬県立歴史博物館寄託

5 下剋上！妻木郷領主の交代

妻木郷を本拠とした土岐明智氏は室町幕府から奉公衆の役職を得ると京都在住となり、その間、妻木郷などの領地は明智氏庶流の家が守りました。しかし、その領地をめぐり在郷庶家と在京宗家の間で内紛が繰り返され、戦国時代には土岐明智氏庶流から台頭した妻木氏が下剋上を果たし妻木郷の領主となりました。伝入の時代には主の森長可から柿野・曽木・細野・駄知・高田六郷（泉町など）の領地が与えられ、妻木氏領は最大になりました。

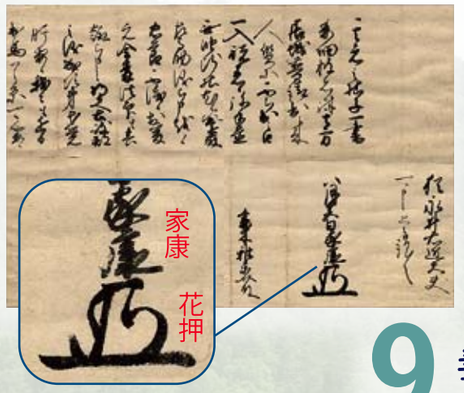
土岐明智氏・妻木氏位牌 江戸時代（18 世紀）崇禅寺所蔵



右：妻木伝入肖像 寛永３（1626）年
左：妻木家頼肖像 元和９（1623）年 いずれも崇禅寺所蔵

6 徳川家と妻木氏のつながり

織田氏、森氏などと巧みに主を変え乱世を生き抜いた妻木氏は、慶長5（1600）年の関ヶ原の戦いで、東濃唯一の東軍として徳川家康のもとで戦いました。その1ヶ月程前、家康と妻木家頼の間では戦いへの備えについて書簡がやりとりされています（右）。その後、江戸幕府が成立すると、妻木氏は7,500 石の旗本となりました。



妻木城主に対する家康の書翰 慶長5（1600）年
妻木城址の会所蔵 土岐市指定文化財

7 土岐明智氏、妻木氏の菩提寺・崇禅寺

文和3（1354）年、土岐明智初代頼重が永保寺3世の果山禅師を招き創建された崇禅寺（現土岐市妻木町）には、土岐明智氏と妻木氏の位牌群や墨跡、絵画、釈迦如来立像など数多くの文化財が残されています。

木造釈迦如来立像 鎌倉時代（13 世紀）
崇禅寺所蔵 岐阜県重要文化財　※複製を展示

8 憶測が飛び交う 明智光秀と妻木氏の関係

出自が謎に包まれた明智光秀ですが、古文書などから妻や妹は妻木氏出身、伯父は妻木郷領主の妻木藤右衛門広忠であるとされます。特に伯父広忠については、定光寺（瀬戸市）の祠堂帳に明智姓で記されており、光秀の活躍を受け明智を名乗ったと考えられ、光秀と妻木氏との深い関係がうかがえます。

右：定光寺祠堂帳（部分）瀬戸市指定文化財
　　室町～安土桃山時代（15～16 世紀）定光寺所蔵
左：妻木藤右衛門広忠位牌台座
　　天正 10（1582）年銘 崇禅寺所蔵

本能寺の変の後に自害

9 妻木氏が住んだ城と館

妻木の里一帯を望める山の上には妻木城が、その山の麓には一族や家臣が住む土屋敷（さむらいやしき）が築かれました。各遺跡からは、中国陶磁や茶陶などが出土し、当時の暮らしぶりをうかがうことができます。

御殿跡出土品 室町～江戸時代（14 世紀後～ 17 世紀中）
土岐市美濃陶磁歴史館所蔵

10 妻木氏の窯業支援

戦国時代後半、妻木郷領主が妻木氏に替わると、妻木氏は窯業の保護・奨励に取り組みました。このとき、領地の久尻で生産されたのが茶の湯の器「美濃桃山陶」です。志野や織部など、色彩、造形ともに多彩で華やかな器は当時の茶人たちを喜ばせました。

元屋敷窯出土品 江戸時代（17 世紀）岐阜県立多治見工業高等学校・土岐市美濃陶磁歴史館所蔵 重要文化財